

令和5年度 山形美術館事業計画書

令和5年4月1日

事業の名称	事業の内容	期間		備考
		入場	料	
こぐまちゃんと しろくまちゃん 絵本作家・ わかやまけんの 世界	こぐまちゃんと、しろくまちゃんて知られる絵本作家・わかやまけん（若山憲、1930-2015）の初めてとなる回顧展を開催する。幼い子どもの日常が明快な線と鮮やかな色で表現された「こぐまちゃんえほん」（全15冊、こぐま社）は、1970年に「日本の子どもが初めて出会う絵本を作りたい」という思いのもと誕生し、世代を超えて読み継がれている。同シリーズに使われた貴重な手刷りのリトグラフ原画を展示し、色褪せない魅力とともに創作の過程を紹介する。 また上記シリーズ以外にも、作者が60年代後半から意欲的に取り組んだ絵本創作も紹介する。ブラチスラバ国際絵本原画展でも高い評価を得た『きつねやまのよめいり』や「おぼけのどろんどろん」を主人公としたシリーズなど。本展ではこれらの絵本原画に加えて雑誌の表紙や紙芝居の原画、資料約230点により、絵本作家・わかやまけんの創作世界の全貌を探る。	4月1日(土) - 5月7日(日)		
		一般 1,200円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜と5月5日は中学生以下無料		
遠藤彰子展 巨大画で挑む生命 の叙事詩	武蔵野美術大学名誉教授で美術団体・二紀会を中心に活動する洋画家・遠藤彰子(1947-)は、「人間の存在」や「今生きている実感」をテーマに、長年にわたり制作を続けている。1989年以降、全長3メートルを超える大作に取り組み、近年は壁面を覆うような7メートルの巨大画へと展開している。2014年に女性画家として初の紫綬褒章を受章、2023年には毎日芸術賞を受賞し、今後のさらなる活躍が注目される。2019年、2021年には、山形県総合美術展洋画部門の審査員も務めた。 本展では初期の「楽園」や「街」などの代表的なシリーズほか、最新作を含む圧倒的スケールの大作群に加えて挿画や立体作品約80点を展示し、現在に至る遠藤彰子の広範な活動の軌跡を紹介する。	7月14日(金) - 8月27日(日)		
		一般 1,200円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜は中学生以下無料		
ゼロ[から]の絵画 木嶋正吾展	山形市出身の木嶋正吾(1953-)は、1980年代から画面にアルミ板を貼りつけた幾何学的な構成によるレリーフ状の絵画「零度」に取り組んできた。近年は画面に貼りつけた紙片を再び剥がし、着色したコラージュによって、モザイク状の淡い表情を持つ絵画を展開している。「零度」以降、「零視」「零比」「零形」「零色」「零層」というシリーズタイトルに何えるように、木嶋の絵画の根底には一貫したゼロへの考察がある。本展では絵画の存立する極点を見きわめ、絵画という形式の可能性を真摯に追究し続ける画家・木嶋正吾のイメージ豊かな世界を紹介する。	11月3日(金) - 11月19日(日)		
		一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料		

-企画展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
没後50年 土田文雄展	米沢市出身の洋画家・土田文雄(1901-1973)は、川端画学校で藤島武二に学んだのち、美術団体・春陽会や国画会で活躍、武蔵野美術大学で教鞭をとるなど後進の指導にあたった。傾倒する梅原龍三郎の影響を受けながらも、幾何学的な構成をもつ風景画などを展開した。本展では具象を軸としながら多様な変遷をたどる土田文雄の世界を、収蔵品を中心として紐解く。	12月14日(木) - 1月28日(日)	
		一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料 ※近岡善次郎展と共通料金	
近岡善次郎 聖なるイメージ	新庄市出身の洋画家・近岡善次郎(1914-2007)は、美術団体・一水会を主な活動の場として、東北の民話や風俗、信仰をテーマに絵画の制作に取り組んだ。本展では、収蔵品から《東北のマリア》をはじめとする母子像ほか、国内の霊場や神仏をモチーフとした作品など、画家が手がけた聖なるイメージを紹介する。	12月14日(木) - 1月28日(日)	
		一般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料 ※土田文雄展と共通料金	

-3県展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第78回 山形県総合美術展	山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。1946年6月に第1回展が開催されて以来、本年で78回となる。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招いて入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示する。併せて第65回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。	9月2日(土) - 9月18日(月・祝)	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第48回 山形県総合書道展	山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し開催している本展は、1975年の第1回展開催以来、本年で48回を迎える。県書壇の重鎮らの合同審査により、優秀作、入選作を選定し表彰する。また審査員らによるギャラリートークを通して、県書道界のなご一層の振興をはかる。	9月23日(土・祝) - 10月9日(月・祝)	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第58回 山形県写真展	山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。1967年1月の第1回展の開催以来、本年で58回を迎える。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家の審査により入賞、入選を選んで表彰する。	2月22日(木) - 3月24日(日)	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	

-収蔵品によるテーマ展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
フランス近代絵画を愉しむ 吉野石膏コレクション・服部コレクション	当館収蔵品のなかで、吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている絵画コレクションは、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまで、多様な作品が揃っている。また、1985年の本館新設に際して収集された服部コレクションは、現代フランス絵画の巨匠たちによる優れた作品群として県内外に知られている。 本展では、二つのフランス絵画コレクションを通して、19世紀から20世紀後半までのフランス絵画の多彩な展開を、テーマを設け通年にわたり紹介する。	年間通し	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※同時開催の企画展と統一料金	
長谷川コレクションー紅花商人が守り伝えた名品	山形美術館の開館後間もない1968(昭和43)年、当時の山形銀行会長であった長谷川吉郎氏より、㊦長谷川家歴代が収集した美術品163点が寄贈された。1994年には㊧長谷川家より当時の殖産銀行(現・きらやか銀行)会長・長谷川吉内氏の遺志を継いだ長谷川憲治氏より81点、翌95年に再び㊨長谷川家より48点が追加寄贈され、全292点で構成される「長谷川コレクション」は、当館の日本美術の中核をなすコレクションとして親しまれている。 本展では、紅花商人であった長谷川家が守り伝えてきた作品を、季節ごとテーマを設け通年にわたり紹介する。	年間通し	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※同時開催の企画展と統一料金	

-収蔵品展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収蔵品展	常設展 「巨匠の広場」「新海竹太郎・竹蔵の彫刻」 「彫刻の小部屋」	年間通し	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※収蔵品展によっては料金の変更あり ※土曜は中学生以下無料	